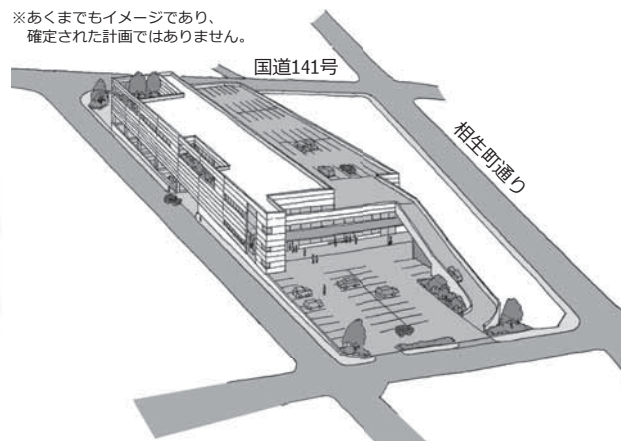


※あくまでもイメージであり、
確定された計画ではありません。



中心市街地に 複合型施設 を計画します。 No. 2

商業 福祉 ターミナル 駐車場

図 企画課

2/15(木)に、こもろプラザで「複合型中心拠点誘導施設整備構想」の説明会を開催しました。説明会では、複合型施設の構想に至った経緯、事業の必要性について説明し、市民の皆様からご質問・ご意見をいただきました。今回は、その一部を紹介します。

構想の経緯・考え方 (抜粋)

小諸市では、市内各地域の特色を活かしたまちづくりを進めるべく、各地域の皆さんが今後も安心して暮らすことのできる、利便性の高いまちづくりを進めています。そのため、従来のコンパクトシティから、市コミュニティバス「こもろ愛のりくん」をはじめとする公共交通の充実を図り、公共交通の利便性が高い中心市街地へ生活に必要な不可欠な施設を集約する、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」へ見直しました。

今回の整備構想では、福祉施設、商業施設、市のコミュニティバスのターミナル、公共駐車場の複合化を計画し、特に福祉施設には「高齢者福祉センター」及び「病児・病後児保育所」を検討しています。そして商業施設には、小諸市の経済活動の発展のため、企業誘致としてスーパーマーケットツルヤ様の再出店に向けた協議を行っています。事業費は約29億円を想定しており、国庫補助金や有利な起債を活用し、一般財源の負担を少なくしていく考えです。商業施設については、テナント方式での契約を想定し、賃料による整備費用と維持管理費も負担いただく予定です。市の負担は福祉施設・公共駐車場・周辺道路整備分などです。

また、この事業費をはじめ、消防庁舎・学校・保育園・市営住宅などの大型事業を計画通り進めた場合の、「長期財政見通し」では、10年後の財政状況も、問題となる状況ではありません。現在、整備構想を具体化するため、「施設基本計画」の策定を進めており、本年5月には素案を公表し、本年8月までに策定する予定です。本年3月からは市内10地区での説明会を開催するとともに、関係団体との意見交換会等も行います。将来にわたり利便性が高く、暮らしやすいまちづくりを実現するため、市民の皆さんへの丁寧な説明やご意見の検討を行いながら、速やかで着実な事業進捗を図ってまいります。

いただいた ご質問・ご意見と 市の考え方 (抜粋)



【ご質問】 なぜ、市が福祉施設と商業施設を整備するのですか。

【市の考え方】 現在、市立図書館の来館者数が延べ50万人となり、市民交流センターや、昨年12月に開院したこもろ医療センターを含め、様々な世代の皆さんが大勢集う拠点が形成されています。

今後も、高齢化社会に対応して、市内各地域から「こもろ愛のりくん」で往来でき、市役所周辺で日常生活の用事がすむ、「まちづくり」を進めるためには、スーパーマーケットは必要な施設です。スーパーマーケットは、郊外でも生活の拠点として位置づけられる中で、中央地区から無くなることの影響は計り知れません。

一方、公共施設の高齢者福祉センターは、老朽化により建替や整備が課題であり、利便性の向上や他施設との相乗効果の点から中心市街地への集約が望ましいものと考えております。

【ご質問】 複合施設とする理由はなんですか。

【市の考え方】

スーパーマーケットの再出店には、敷地の拡張が必要で、福祉施設も併設するためには、限られた用地を有効活用する必要があります。施設を複合化するものです。

【ご質問】 なぜ、市が事業主体なのか

【市の考え方】 周辺用地の確保については、公共事業による取得が円滑に行えるため、市が主体となり、事業を進めるものです。

【ご質問】 事業費は全て市が負担するのですか。

【市の考え方】 市が事業主体となりますが、事業費すべてを負担するものではありません。商業施設分は、建設費相当分と維持管理費も含めて負担を頂く予定です。

その他のご意見

- ・ 商業施設の出店は民間の問題であり、行政が携わらず、将来に負担を掛けないように。
- ・ 利便性の点では良い計画に感じる。スピード感を重視した判断も大事。
- ・ 市民の意見をよく聞き、納得のいく方向で。